

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290600022		
法人名	社会福祉法人 八甲田会		
事業所名	グループホーム 八甲荘		
所在地	〒034-0001 青森県十和田市三本木字西小稲195-1		
自己評価作成日	平成24年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりとした雰囲気の中、利用者様のペースで過ごすことができ、役割や楽しみを持っていただくことで生活の質の向上、認知症状の進行を軽減できるよう、支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>平成23年3月に開設したばかりの新しい事業所で、居室のほか、居間兼食堂も広く、木のぬくもりのある空間となっており、カウンター式のキッチンからは見守りが出来る利点がある。利用者の多くがリビングでくつろぎながら過ごされている。入浴は一般浴にリフトも設置されており、身体機能が低下しても安心して入浴が出来る環境がある。家族に対しても毎月手紙で生活状況をお知らせし、信頼関係を築きながら支援している。又、法人合同での勉強会を開催する等、サービスの質向上につなげている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員の目の届く所に掲示している。利用者の生活の質の向上の為、職員間で共通の意識を持っている。	オープン時に法人と共有で作られた理念である。ホール内・事務所内に掲示し、月1回の会議にて唱和しているほか、毎月ケアの目標を立てて日々のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の盆踊り大会に参加したり、地域の紙芝居ボランティアや踊りのボランティアなどに来ていただき、交流を持っている。	まだ新しい事業所であるが、地域の掃除活動や諸行事に参加したり、ボランティア活動を通して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、町内会長や民生委員など地域の方へ出席していただき、認知症に関する勉強会や意見交換などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行っている。利用者の状況を話し合ったり、消防訓練を行ったり、ご家族や地域の方と意見交換を行っている。	2ヶ月に1回開催している。事業所及び利用者の状況や関心のある話題について話し合いをし、意見交換を行っている。また、会議に合わせて避難訓練を実施する等工夫し、協力関係構築の呼びかけを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へは毎回出席していただき、意見交換や情報交換をしている。またメールにて、情報交換など行っている。	運営推進会議に参加してもらっている他、メールでの情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で、身体拘束を行わないという共通の認識を持ち勉強会を行っている。行動障害のある方に関しては利用者の意思を尊重し、対応している。	勉強会の他、法人の職員会議で取り上げ、知識を深め共通認識を持ち、見守りながら安心・安全の中で過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、理解を深めている。また利用者のペースで過ごしていただくことや、意向を尊重し生活していただくことを考え支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する勉強会を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時に、重要事項説明書や契約書について十分に説明し、納得していただいた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への日々の声掛けや、ご家族様の面会時に、コミュニケーションを取っており、意見や要望を引き出せるよう心懸けている。また日々の申し送りでその内容を共有している。	運営推進会議の場や入居時のアンケートで、意向や意見を聞いているほか、面会時には積極的にコミュニケーションを取るよう心懸けている。得られた意見や要望に関しては朝、夕方の申し送りにて共有し、ケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、月2回の職員会議にて、意見交換やケアにおける話し合いなど行っている。	毎日の申し送りにて気付き等を出し合い、共有し改善に向け取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の休みの希望はほぼ希望通りにしている。また、選択できる外部研修などは選択してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に内部研修の予定を組み込み、毎月行っている。また母体の施設の会議が月1回あり、全員参加し、勉強会を行っている。外部研修は積極的に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの勉強会に参加したり、入所している利用者が他グループホームに家族がいる為、面会にお連れしたりしている。その際意見交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、困っていることや不安なこと、要望などに、傾聴、対応し安心して過ごしていただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で、困っていることや不安なこと、要望などを傾聴し、不安なく利用していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、ご家族、本人、担当ケアマネ等から、情報を収集し、何が必要かを見極め、サービスの利用やケア方針などに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、お米とぎやお茶碗洗い、掃除など、一緒に出来ることは一緒に行い、共に生活をする仲間として役割を持っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、近況を報告している。また、毎月おたよりを発行し、写真や担当職員のコメントなどで近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他グループホームへ馴染み人への面会や、行きつけの床屋や行きたいスーパーなどへ外出支援している。行事の時はご家族へ一緒に過ごして頂けるようご案内している。	これまでの暮らしを継続するために必要な情報を中心に把握し、行きつけの理髪店や友人への面会の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の孤立やトラブルが無いよう、職員が間に入り、円滑に関わることが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時後、ご家族が来られた際は、近況を聞いたり、必要があればまた相談に応じますと伝えており、必要時には、声を掛けてもらい関係が継続するよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報収集や本人様からの聞き取り、また困難な場合は、表情や動作などから思いをくみ取るようにし、思いを尊重出来るよう、職員間で話し合いをしている。	入居時に独自のアンケートを用いている。家族・本人・ケアマネジャー等から情報を収集しているほか、日々のケアでの気付き等をセンター方式を部分的に活用した物に記入し、意向を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネからの情報収集や契約時の聞き取りや、アンケートなどにて、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の情報やご家族からの聞き取り、また入居後の観察、記録、意見交換にて職員間で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのモニタリングや状態が変わった時の見直し、また月2回の会議にて話し合いを行い、それを元に介護計画を作成している。	会議や申し送りの中で気付いた点等を出し合い、随時情報の把握を行い、計画作成の際には 家族にも意見を聞き作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、月2回の職員会議にて、ケアの方法や見直しについて話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、なるべく意向に沿えるよう都度話し合いを行い、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受け入れや、運営推進会議に地域の方に出席していただき、交流や地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と連絡を取り合い、希望に添い、主治医やグループホームの協力医療機関と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	多くは入居前のかかりつけ医となっている。ちょっとした変化や、不安に思う事に関しては、電話にて相談する事ができ、アドバイスも頂けている。通院に関しては事業所側での対応が多いが、状態変化に合わせて家族にも同席していただいている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は配置していないが、母体の施設や協力医療機関の看護師と連携を取り、個々に適切な看護や医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に家族連絡やお見舞いなどをし、ご家族や病院関係者と情報交換を行い、安心して治療出来、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアは行っていないが、重度化した場合に向けて、本人やご家族の意向を確認し、グループホームで出来ることを十分に説明している。	入居時の段階で終末期については医療的対応が出来ない事を説明している。重度化した際には事業所で対応できる範囲を伝え、家族に不安がないよう早い段階から特別養護老人ホームの申し込み手続き等の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の勉強会を行ったり、無断離荘時や急変時のマニュアルを作成し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い、落ち着いた避難誘導が出来るようにしている。また災害時に備え食料の備蓄をしている。災害時は、地域と相互に協力できるよう、町内会長や民生委員へ呼びかけている。	消防立会いの訓練のほか、毎月訓練を行い避難方法を確認している。運営推進会議でも訓練の場を設け、災害時には協力が得られるように働きかけている。また、同敷地内の倉庫で備蓄も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人のことを理解し、その方に合った安心できるような声掛けをしている。また入浴は、個々に行いプライバシーを確保している。	日々の関わりに関しても、その都度職員へ意識付けさせ、また職員間で振り返り、利用者の尊厳やプライバシーを損なう事のないよう、一人ひとりを理解した上で、対応方法の把握をし、職員間で共有しあい、誘導時もさりげない声掛けと普段の会話等にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の希望を尊重している。着たい服を見せて選んでもらったり、選択食などを行ったりし自己決定できるような声掛け、対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など、利用者の希望に合わせて行うように、心懸けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服の選択や、希望の床屋などの外出支援をしている。またお化粧品ボランティアに来ていただき、お化粧品をしてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てた野菜をメニューに取り入れたり、餃子作りや、団子作り、また盛り付けや食器洗いなどを個々の能力に応じて行っていたり、食事時に話題にするなどし楽しく食事を摂っていただける様支援している。	職員も利用者と同じテーブルで食事をされている。意欲や気持ちを引き出すような場面作りに配慮されている。また、食に関する関心を高める為に、収穫した野菜を献立に盛り込んだり、選択食や外食を取り入れている。個々の能力に合わせて食事の準備や片付けの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、食べる量や水分の量が少ない方は、こまめに必要な量を摂っていただく様、支援している。献立に関しては、母体の栄養士にアドバイスをもらい作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声掛けをしている。また自力にて行える部分は行っている。うがいは殺菌作用のある緑茶にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて利用者の排泄パターンを把握し、失禁の無いようトイレの声掛けや誘導をしている。また自力にて行える部分に関しては、声かけや一部介助にて、行っている。	個々の排泄パターンを把握し対応している。その方に合わせてケア出来ている事から失禁も減ってきている。夜間はポータブルトイレの使用など、本人の状況を検討しながら自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握している。また、水分量の確保や適度な運動、乳製品などを取り入れ、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	個々のその時その時の希望に合わせ、午前午後や日にちをずらすなどしながら、週2回以上入浴出来るよう支援している。	入浴日は週4日間設けており、時期的な事や本人の希望により週2回は入浴出来るようにしている。浴室は広く仲間同士での入浴も楽しめる。また、身体機能の低下に合わせ、リフト浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、新聞やテレビ、散歩、パズルなどそれぞれのペースで過ごして頂くなかで、1日2回のラジオ体操やレクリエーションを行い活動的に過ごしていただき、夜間安心して眠れるよう努めている。また夜間眠れない方に関しては付き添い、安心出来るような声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のファイルを作成し、いつでも確認出来るようにしている。また薬の変更時は申し送りにて、薬の種類や副作用などを共有し状態の変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買い物、お茶碗洗い、洗濯物干し、掃除など個々に出来ることを把握し、行ってもらっている。また好きな食べ物など、定期的に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	母体の施設の慰問や買い物、道の駅、地域の盆踊り大会など、希望を取って外出している。また母体の納涼祭には、ご家族へも案内し一緒に過ごして頂けるよう、努めている。	一日の大まかな日課はあるが、天候や利用者の希望に合わせて、気分転換やリハビリを兼ねた散歩や買い物に出掛け、五感を刺激できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で管理している方は、外出の際自分で使用している。またおこづかいを預かり、希望のあったものを購入したり、一緒に買い物に行った際、使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援は希望なく行っていないが、電話は希望時に自ら電話出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって心地よく安心して過ごせるよう、リビングの家具を配置したり、季節の花などを飾ったりしている。また温度、湿度はこまめにチェックし快適に過ごせるよう調節している。	利用者が常時過ごせる食堂兼リビングは、一人ひとりが思い思いの場所で過ごせるよう、ソファを共有空間に置き、テレビを見たり、新聞を見たりくつろいでいる。空間内も木のぬくもりで天井も高く広いスペースであり、採光、温度、湿度の管理により快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファやイス、食堂のテーブル、廊下のイスなど、思い思いに過ごせる場所をいくつか設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、なじみの家具などを持ってきていただき、少しでも安心した空間になり、心地よく過ごしてもらえよう努めている。	備え付けの家具もあるが、馴染みの物を持ち込んで頂けるよう、家族への説明もされている。本人の馴染みの物を持ち込まれており、その人らしい個性が感じられる居室環境ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋の前に、それぞれの違った飾りをし、自分の部屋が分かるようにしている。また手すりやバリアフリーで、安全に生活できる環境にしている。		